

開館一周年記念展

# 向井潤吉の年輪

## 創作70年



〈自画像〉1919年

1994年9月3日[土]—12月25日[日]

開館時間—午前10時—午後6時(入館は5時30分まで)

休館日—毎週月曜日(休日にあたるときは翌日)

観覧料—一般200円(160円) 大高生150円(120円) 中小生100円(80円)

( )内は20名以上の団体料金

世田谷美術館分館

## 向井潤吉アトリエ館

〒154 東京都世田谷区弦巻2-5-1 TEL 03-5450-9581

〈遅れる春の丘より(長野県北安曇郡白馬村北城)〉1986年





昨年7月に向井潤吉先生の多大なる寄贈によって世田谷美術館の分館として開館した向井潤吉アトリエ館も、開館一周年を迎え、そして多くの入場者を迎えてきました。

近隣の皆さまに加え、関東近県、また遠方から来館される方も増え、向井潤吉先生の作品の数々が、いかに多くの人々の心を魅了しているかを、あらためて感じざるを得ません。

向井潤吉先生は、今年で93歳になられます。これまでに過ごされてきた四季の移ろいを想う時、それは描かれてきた膨大な作品の数々が物語る通り、とても遙かな、そして豊かな時の重なりで満ちています。

向井潤吉先生が絵筆を手にしてから、70数年の歳月が流れました。京都の関西美術院での勉学の日々に始まり、昭和2年(1927)から昭和5年(1930)にかけての渡欧生活では、パリを中心として創作活動が展開されました。ルーヴル美術館における21点もの古典名作の模写を通して、油絵画の技法を深く学び、西洋美術の本質と真っ向から対峙されたわけです。そして数え切れない紙数を費やしたクロッキーでは、対象を短時間に的確に捉える習練を重ね、画家としての地歩をかためました。

戦後間もない頃より制作され始めた“民家作品”の数々は、50年にわたる年月のうちに2,000点を数えると思われまふ。その希有なる着眼点によって制作されてきた“民家作品”は、年を経るにしたがって、高度経済成長時代の中で我々が喪失してきた“いにしえ”の田園風景を彷彿として現代に蘇らせてくれるようです。

向井潤吉先生の描いてきた民家とそれを取り囲む風景は、平面的な絵画という領域にありながらも、現代に生きる私たちにとって、かつての日本に広がっていた風景を見渡すための、貴重な窓となっていると言えまふ。あるいは今日において、守るべき自然景観があることを、私たちに伝えてくれているようにも思えます。

めぐりめぐっていく季節のうちに年輪を重ねてきた、日本古来からの民家の風情と自然。その姿を追い求めつつ年輪を重ねてきた向井潤吉先生の創作世界を、初期作品から近作にいたる油彩、水彩など45点によって展覧いたします。



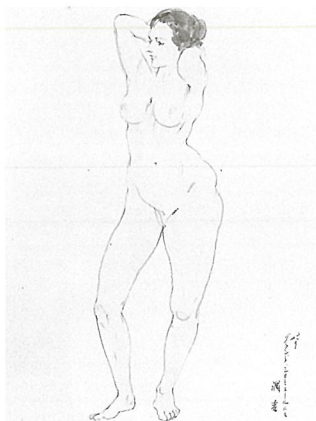
《微雨(長野県木曾郡南木曾町妻籠)》1974年



《山家雪意(宮城県刈田郡七ヶ宿町関字横川)》1961年



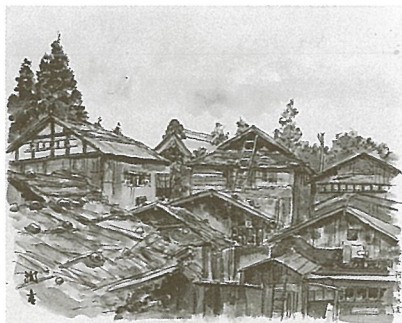
《街の力士》1928年



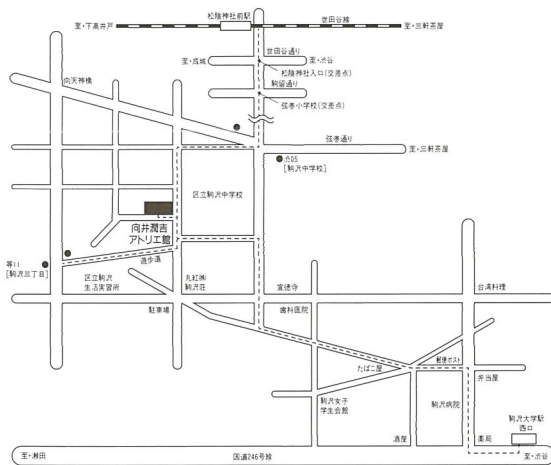
《裸婦(パリ・グランドシヨミエールにて)》1959年



《裸婦(グランドシヨミエールにて)》1959年



《阿仁合の部落(秋田県)》制作年代不詳



●最寄り交通機関のご案内

- 東急新玉川線【駒沢大学】 駅西口 下車/徒歩10分
- 東急世田谷線【松陰神社前】 駅 下車/徒歩17分
- 東急バス (渋05) 渋谷～弦巻営業所 【駒沢中学校】 停留所下車/徒歩3分
- 東急バス (等11) 祖師谷折返所～等々力 【駒沢三丁目】 停留所下車/徒歩6分
- 東急バス (渋11) 渋谷～田園調布 【駒沢大学駅前】 停留所下車/徒歩10分
- 東急バス (渋13) 渋谷～砧本村 【駒沢大学駅前】 停留所下車/徒歩10分

世田谷美術館分館  
**向井潤吉アトリエ館**  
 〒154 東京都世田谷区弦巻2-5-1  
 TEL 03-5450-9581